

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町 65  
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175  
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 「宣教・牧会の8年目」

－ 2022年の宣教協議会に向けて－

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

2022年秋に10年ぶりに宣教協議会の開催が予定され、準備が進められています。各教会・教区・教役者・関連施設のみなさまには、アンケートへのご協力をいただきありがとうございました。3つの宣教協働区の働きやコロナ危機での経験も大切なトピックとして分かち合われることになると思います。近年では、敗戦後50年の節目である1995年に清里で、東日本大震災の翌年2012年に浜松で宣教協議会が開催されました。

95年の宣教協議会では、「日本聖公会の宣教一歴史への責任と21世紀への展望」という主題が据えられ、私たちが平和の器として用いられることを願い、「日本聖公会'95宣教協議会宣言」と「日本聖公会'95宣教協議会共同ごんげ」が発せられました。この宣教協議会を受けた翌年の総会で「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」が決議されました。そこでは、「私たちの悔い改めの徴として、日本聖公会の戦争責任の告白を全教会が共有し、日本が侵略した諸国の教会に対して謝罪の意を伝え、歴史的事実の認識と福音理解を問い直し深めるための取り組みを、各教区・教会の中で継続して進めること」が明記されました。現在、管区の宣教に関わる諸委員会などの設置の根底には、この95年の宣教協議会があります。

直近の2012年宣教協議会では、「いのち、尊厳限りないもの－宣教する共同体のありようを求めて」という主題のもと、「日本聖公会<宣教・牧会の十年>提言」がまとめられました。そこでは、信徒の減少、高齢化、聖職者の不足、財政難などの課題がある中、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故を経験し、被災者支援の働きを行う中で、「私たち日本聖公会の宣教の原点は、教会内の牧会はもちろん、教会のある地域全体に対する牧会的働きをていねいに実践していくこと、その地域にある課題、そしてこの世界にある課題に誠実に取り組むことにあると再確認しました。」と提言し、10年後にその実りを持ち寄る宣教協議会の開催が提案されました。

これまでの宣教協議会を経て、日本聖公会が何を大切に歩

## 口会議・プログラム等予定

(2021年6月25日以降・前回未掲載分)

### 6月

- 17日(木) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [Web]
- 18日(金) 女性の聖職位に関わる委員会 [Web]
- 25日(金) 宣教協議会実行委員会 [Web]
- 26日(土) ハラスメント防止・対策研修会(中日本宣教協働区) [Web]

### 7月

- 1日(木) 主事会議
- 6日(火) 常議員会 [Web]
- 8日(木) 法憲法規委員会 [Web]
- 13日(火) 人権セミナー打ち合わせ [Web]
- 15日(木) 正義と平和委員会 [Web]
- 19日(月) 「教会とセクシュアル・マイノリティ」研修会 [Web]
- 20日(火) 正義と平和・沖繩プロジェクト会議 [Web]
- 20日(火) 教役者給与タスクフォース会議 [Web]
- 24日(土) ハラスメント防止・対策研修会(西日本宣教協働区) [Web]
- 28日(水) 「セーフ・チャーチ・ガイドライン」に関する打ち合わせ [Web]

### 8月

- 4日(水) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [Web]
- 5日(木) 財政主査会 [Web]
- 17日(火) 新任「人権」研修会 [Web]
- 26日(木) 人権問題担当者会 [Web]

### <関係諸団体会議・他>

- 6月29日(火) NCC 役員会 [Web]
- 7月9日(金) 聖公会生野センター30周年記念事業委員会 [Web]
- 13日(火) NCC 役員会・常議員会 [Web]

※新型コロナウイルス対策のため、管区事務所はしばらくの間、就業時間の短縮と隔日出勤(平日 月・水・金は10:00-16:30 出勤、火・木は在宅勤務)を実施します。在宅勤務でもメールの送受信は可能です。

(次頁へ続く)

んできたのかを振り返りながら、みなさまからアンケートでお伝えいただいた宣教のありようを参考に準備が進められ、年内には、テーマなどの詳細がお知らせできると思います。「近くのほかの町や村へ行こう。そこでも、私は宣教する。私はそのために出て来たのである。」(マルコ1:38b、聖書協会共同訳)と言われるイエスさまに身を委ねつつ。



(前頁より)

15日(木) 難キ連世話人会 [Web]

27日(火) ACT ジャパンフォーラム運営委員会 [Web]

8月17日(火)・18日(水) E-net 協議会・総会 [Web]

24日(火) 聖公会関係学校代表者協議会・事務局連絡会、同研修会 [Web]

★管区事務所夏期休業

8月10日(火)～16日(月)までの間、夏期休業いたします。よろしく願いいたします。緊急の場合は総主事まで。

†逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 アタナシオ根本圭一郎(横浜・退) 6月16日(水) (81歳)

## 《人事》

### 横浜

<信徒奉事者認可>  
(千葉復活教会)

2021年5月12日付 任期1年  
ペテロ永井直行

## 《教会・施設》

小名浜聖テモテ教会(東北)  
久留米聖公会(九州)

電話新設: 0246-92-4174  
2021年6月13日付 聖堂聖別解除

## 原発のない世界を求める週間

### オンラインフォーラム「原発はやめようよ」の報告

<5月30日～6月1日/6月6日～6月7日>

#### 「正義と平和委員会」原発問題プロジェクト クリスティーナ 池住 圭

「原発のない世界を求める週間」に合わせ、前半と後半に分け第一回目を開催しました。参加者は各教区から2名、正義と平和委員会・委員、青年、管区事務所総主事、宣教主事、そして当プロジェクト委員の35名です。

1日目の開会礼拝では武藤謙一首座主教からメッセージを頂き、続いて会津放射能情報センター代表の片岡輝美さんから「考えること悩むことは、いのちに向き合うこと～福島からのメッセージ」と題して講演を頂きました。

2日目以降は、プロジェクト委員の尾関敏明さんの発題とグループごとの話し合いが中心です。

委員会が話し合いを大切にしたいと考えたのは、フォーラム後も参加者同士が繋がりを持ち、情報の共有や相談し合える場ができれば、との願いもあったからです。参加者を宣教協働区ごとに6グループに分け、発題後に毎回話し合いの時間を持ちました。全期間を通しメンバーは変わりません。

課題ごとの発題はとても分かり易いものでした。一方で鋭い問いかけが随所にあり、身近なエネルギーについて考え、話し合う契機になりました。

以下は、発題の6項目です。

①教会とエネルギー：18世紀の産業革命により急激な工業化が進みました。より多くのエネルギーを求めて、石炭から石油、ガス、そして原子力の利用に発展しました。過去から近未来までの世界のエネルギー消費量と人口の推移を図示しながら、エネルギー問題は一層深刻になるであろう、としています。そして、日本聖公会の取り組みを紹介し、「教会は何を発信し、どのような責任があるのか」と問うています。また、ドイツ連邦政府が、福島第一原発事故の直後に脱原発へと政策転換をした経緯が紹介されました。

②核のゴミ：核廃棄物の処分方法や各国の処分に関する状況を紹介していますが、最終処分場に関してはフィンランド以外決まっていません。放射能が安全レベルに低下するまで10万年以上かかると言われています。日本の処分地選定に向けた「科学的特性マップ」や「幌延問題」にも触れ、「このような原発を今後も稼働し続けるのだろうか」と問いかけています。

③原発事故：世界で起こった10大核事故とその悲惨な現状を紹介しています。その内の2件は日本です。経済的側面、政治的側面、文化的側面、倫理的側面から原発事故は私たちに何をもたらしたのか、いろいろな視点から考える機会が与えられました。

④再生可能エネルギーの活用：太陽光、太陽熱、風力、地熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーをデメリットも含め紹介しています。その上で、「電力供給システムを分散型にして、再生可能エネルギー同士で発電容量を補完し合うことによって、クリーンで安定した電力を確保することができると思う」と述べています。

⑤私たちに出来ること、私たちの責任：国連SDGsに触れ、「原発のない世界を求めること」は「いのちと人間の尊厳を守ること」としています。一つの事例として市民共同で太陽光発電/蓄電設備を設置した京都教区の「せいこうようちえんおひさまプロジェクト」について、松山健作司祭からお話を伺いました。

⑥私たちの教会・教会での働き：私たちは、これまで原発を容認して来た責任ある者として、何をすべきか、何が出来るのか、どのように歩みを

進めて行くのか、さまざま意見交換をしました。

エネルギーは私たちの信仰や教会、いのちとどのような関わりがあるのか、これは全期間を通してのテーマです。原発や放射性廃棄物の問題と現状、そして再生可能エネルギーに関して学び、原発といのち、いのちの尊厳について思いを巡らし、意見を交わしました。そして、「核といのちは共存できない」との共通認識を得たように思います。

閉会礼拝では、正義と平和委員会・委員長の上原榮正主教からメッセージを頂きました。

フォーラムの詳細は資料も含め、管区のHPや[原発問題プロジェクト](#) | [日本聖公会 正義と平和委員会](#) | [原発のない世界を求めて](#) とインターネットで検索し、「原発のない世界を求める週間」からご覧頂けます。また、報告書を作成します。後日、より詳しい内容と参加者の声をお届けできることと思います。

#### ■オンラインフォーラムに参加して

「いのち」と向き合うために、  
神さま、道をお示してください

九州教区伝道部 クララ 安村 妙

心の底に穴があき、じつとうずくまり、もう一度神様の導きを信じて光の方に歩み出す…。「原発はやめよう」での講師お二人のお話しは、到底すべて理解したと言えないが、根底にあったのは、そういうお話であったように思う。「核といのちは共存できない」が共通のキーワード。原発開発の現場で働いてこられた尾関さんの「たどり着いた原点です」という言葉はとても重いものだった。

公開セミナー講師、片岡輝美さんは日本基督教団信徒で、会津放射能情報センターを初めいくつもの活動をされている。そのパワーの源は？と質問が出たほど。「安心させてほしいんじゃない、事実を知りたい。決めるのは私達自信」…信仰に支えられ、いのちを守る戦いを続けられている。「放射能のことを語りにくい」お母さん達…

なくていい亀裂、あたりまえの不安を口にしない社会、それも原発事故の深い後遺症なのだろう。語りの場もまた貴重な活動だと思う。

フォーラムでは尾関さんの発題とともに、各グループでの分かち合いも大切にされた。核のゴミ、原発事故、再生可能エネルギー、何ができるのか。すぐに結論が出るわけではない。が、いろいろな意見が聞けた。再エネが環境破壊になることも。ドイツのように脱原発を「倫理」から決断することが日本にできるか。「技術至上」のままでは変わらない。何を大切にする社会であってほしいか、その選択の問題。次世代への責任。なぜ止められないのか。核兵器につなが

るのに…つながるからこそ？いのち、生活のありようの問題は信仰の問題…等々。

何ができるのか、これからの教区も多いが、東京教区の「パワーシフト」キャンペーン、いくつかの教区では環境問題対応の教会設備を整える融資等も。今後も原発問題プロジェクトを中心に各地・各教区の情報共有をすすめていくことになった。

「考えること悩むことは、いのちに向き合うこと」今同じ日本に、その最中に暮らす方々がいることをもう一度胸に刻みたい。知り、考え、悩み、ともにいのちに向き合うことを怠らない…、私がすべきことはそういうことのように思った。



## オンライン研修会のご案内

### 「教会とセクシュアル・マイノリティ これだけは知ってほしい!」

日時	2021年7月19日(月) 19:00～21:00
講師	寺田 <sup>るか</sup> 留架さん(約束の虹ミニストリー代表) 川口 <sup>だん</sup> 弾さん(研究者/神学・クィア理論)

女性に関する課題の担当者 クララ 吉谷かおる(北海道教区)

昨今、セクシュアル・マイノリティ(性的少数者、LGBTと言われることもある)についての話題を耳にすることが増えました。「性の多様性」について理解が進んでいるかに思われるこの頃ですが、わたしたちの教会ではどうでしょうか。身近なことだと感じられない、という方もおられるかもしれませんが、「男女はこうあるべき」という決めつけが、隣にいる人を知らずに傷つけるようなことも起こりえます。

今回「教会とセクシュアル・マイノリティ これだけは知ってほしい!」というタイトルのオンライン研修会を企画しました。寺田留架さん





(写真左・約束の虹ミニストリー代表)と川口弾さん(写真右・研究者/神学・キア理論)のおふたりが講師として、ご自分の経験を通してのお話をさせていただきます。

寺田留架さんは、クリスチャンの家庭に育ち、福音派の神学校を卒業された後、「約束の虹ミニストリー」の名でキリスト教の中にセクシュアル・マイノリティの居場所を回復するための活動を続けておられます。川口弾さんは、曾祖父・祖父・父の三代みなさまが牧師という環境に育ち、美容師として働いたのち、日本とアメリカの福音主義系の大学を経て、現在はイエール大学神学大学院に在籍して学んでおられます。

どんな性の人がいるのか、教会にいるのがつらく感じられるのはどういときか、教会が誰にとっても安心できる場所となるにはどうすればよいのかなど「これだけは知っておきたい!」ことをうかがうチャンスです。ぜひご参加ください。

※ 参考資料 約束の虹ミニストリー『なんで教会がツライのか考えてたら出来た性理解のためのブックレット』(エメル出版)

### ○開催方法

Zoomによるオンライン(ウェビナー形式)

\* ZoomのURLは受付後に出席者へメールでお知らせいたします。(無料)

### ○参加対象

各教区で人権問題やハラスメント防止等を担当しておられる方ほか 希望者 60名程度

### ○申込送付先

<https://forms.gle/SVFtojViGAyzscky8>

お名前、Email アドレス、所属(教区、教会、団体など)を上記 Google フォームにてお知らせください。**7月5日(月)まで**にお申し込みくださいますようお願いいたします。

### ○問い合わせ先

genderp.nskk@gmail.com

主催/日本聖公会女性に關する課題の担当者・正義と平和委員会ジェンダープロジェクト



## 世界の聖公会の動向

☆科学者と神学者による協働計画 — ACSC の新設—

☆フィリピン聖公会の新首座主教

管区渉外主事

司祭 ポール・トルハースト

### ○科学者と神学者による協働計画

#### — ACSC の新設—

「科学に関わる諸問題において、アングリカン・コミュニオン全体が勇気と自信を持って精神的なリーダーシップを発揮できるようにする」ことを目的に、アングリカン・コミュニオン科学委員会(ACSC)が新設されることになった。ACSCの共同議長は、ケープタウン大主教のタボ・マクゴバ師とオックスフォード教区主教のステイブ・クロフト師が務める。

ACSCは来年、イギリスのカンタベリーで開催されるランベス会議で正式に発足し、その直後に最初の会議を開催する予定である。

アングリカン・コミュニオン総主事であるジョサイア・イドゥ=フェロン博士は、世界中の科学者、神学者、主教を委員として招聘している。またカンタベリー大主教のジャスティン・ウェルビー師は、アングリカン・コミュニオンの首座主教たちに、委員会の会議のために管区代表を務める主教を各組織から指名するよう依頼した。

2022年に開催されるランベス会議では、科学が重要なテーマとなる。このため主催者は、科学と信仰の関係を探るため、複数の動画をランベス会議のウェブサイトに投稿した。

カンタベリー大主教のジャスティン・ウェルビー師は、この紹介動画の中で、科学の重要性について次のように述べた。「多くの人々を貧困から救い出してきたのは、科学の進歩です。世界が自給自足できるようになったのは科学の進歩のおかげであり、一年前には想像もできなかったようなスピードでワクチンを製造できるようになったのも、科学が普及したからです。世界の中での私たちの立場を大局的視点から把握することが可能になったのは、科学のおかげです。また、気候変動が世界に及ぼす危険性を認識させ、将来的に何ができるかを考えさせてくれるものも科学です。すなわち、科学は人類への贈り物なのです」。

### ○フィリピン聖公会の新首座主教

フィリピン聖公会の第11回総会はこのほど、フィリピン北部教区の主教を次期首座主教に選出した。ブレント・ハリリー・W・アラワス主教は、6月に退任するジョエル・パチャオ首座主教の後任となる。

総会は、4月7日と8日に、ハイブリッド形式で開催された。大多数の代議員が教区内の会場に集い、さらにオンライン会議サービスを利用して全国をつないだ。唯一の候補者であったブレント主教は、第一回目の投票で選出された。

今総会のテーマは、「預言的宣教を回復する」であった。反テロ法への反対を表明する決議が承認された。さらに、Covid-19の流行に対抗するために、より積極的で思いやりのあるアプローチが要請された。また、ビサヤ宣教区を次の三年間で伝道教区に昇格させることも承認された。

## 新型コロナウイルス (COVID-19) に関連する 各教区の対応

### 北海道教区 原則として礼拝(公禱)を行なうが、各教会で判断

- 札幌キリスト教会(主教座聖堂) / 当面公開の礼拝は休止し教役者で守る。礼拝の試験配信を実施中。
- 各教会 / 礼拝(公禱)の休止なし。
- 教会での礼拝は主日・週日いずれも定時に行ない、誰でも参加可能。
- 礼拝に関して不安や恐れがある信徒は自宅で礼拝を守ってもよい。

### 東北教区 礼拝(公禱)の再開

- 主日礼拝等は、再開しているが、地域によって動きの違いはある。引き続き十分な感染対策を取る。
- 葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。
- 各県の警戒レベルを注視して対処すること。

### 北関東教区 礼拝(公禱)の再開または休止

- 各教会・礼拝堂で協議し、地域社会と共同体の状況により適切な対応を講じる。
- 葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。

### 東京教区 礼拝(公禱)は再休止中

- 礼拝について、公開での礼拝は2020/12/27以降休止中。
- 葬儀および礼拝堂の公開などは、感染防止の対策の上、それぞれの教会・礼拝堂の状況にあわせて実施可能。
- インターネットによる礼拝等の配信を行なっている教会がある。

### 横浜教区 礼拝(公禱)の公開または公開休止

- 「礼拝指針」の徹底。
- 「新型コロナウイルス感染症発生時の教会対

応ガイドラインの順守。

- ・在籍外の教会、また教区を越えての礼拝出席は控える。
- ・東京都に隣接する神奈川県および千葉県に在住で健康に不安のある人は公共交通機関を利用しての来教を控える。
- ・引き続き、ウイルス感染再拡大への対応として、それぞれの教会または地域の感染状況により、各教会で礼拝の公開休止の判断をする。

#### 中部教区 礼拝(公禱)の一部休止

- ・主日及び週日の礼拝再開、休止については『礼拝再開に関するガイドライン』に基づき各教会で判断。
- ・緊急事態宣言下のエリアにある教会は原則礼拝等休止。

#### 京都教区 各教会で判断

- ・各教会で判断。緊急事態宣言が解除され、主日礼拝再開の教会もあるが、引き続き感染防止策を継続して行なう。

#### 大阪教区 礼拝(公禱)の再開

- ・原則として6月27日の主日より礼拝を再開。
- ・各教会のおかれている地域・関係諸施設とのかわりなどを考慮して、各教会・各諸施設が礼拝の公開を休止する判断も支持する。

#### 神戸教区 礼拝(公禱)の再開

- ・教区の自粛基準に基づき、各教会で判断し、自粛の場合は教区主教に報告している。
- ・主日礼拝は聖餐式(一種陪餐または前部)または、み言葉の礼拝を行なっている。
- ・緊急事態宣言が解除された県下の教会では、礼拝を再開している。

#### 九州教区 礼拝(公禱)の一部休止

- ・無理に主日礼拝に来ることをお勧めしない(体調の悪い方・公共の交通機関で教会に来られる方など)。

#### 沖縄教区 礼拝(公禱)の休止

- ・緊急事態宣言発令中の礼拝を休止。7月11日まで。

#### 管区事務所

- ・しばらくの間、就業時間の短縮と隔日出勤(平日 月・水・金は10:00-16:30で出勤、火・木は在宅勤務)。
- ・在宅勤務でもメールの送受信は可能。緊急の場合は管区事務所総主事の司祭 矢萩新一まで。

(2021年6月25日現在)

\*その他各教区の詳細な対応状況は管区のHPでご覧いただけます。

## 「BSA創立100周年

### 記念ロゴマーク」決定



2027年、BSAは創立100年の記念の年を迎える。その機運を盛り上げていくため、「BSA創立100周年記念ロゴマーク」を募集し、作成することにした。

2019年7月募集を開始、2020年1月31日募集を締切り、全国から12点の作品が寄せられた。

コロナ禍の中、選考会の実施延期が続き、ようやく開催出来た。結果「BSA創立100周年記念ロゴマーク」は、聖職候補生 福永澄兄(BSA会員・聖公会神学院神学生)の作品を選出した。同作品はデザインの評価が高く、BSA創立100周年の記念の祝いを的確に表現されている。など高評価を受け決定された。

このロゴマークは、BSAホームページをはじめ、BSAの発行物、封筒・名刺などに順次入れ込んで活用していきます。作品を寄せてくださった方々、募集にご協力くださった皆様、専門の立場から選考に関わってくださった蘆田信裕兄(BSA会員・柏聖アンデレ教会)に、深く感謝いたします。

BSAは継続し、年4回のVISION紙発行、年内には新刊『信徒叢書』3冊発行を予定し、休止中の「BSAセミナー」「青少年キャンプ」の復活に努力している。

いつも、皆様のお励ましに感謝しております。主に感謝。

(執筆・BSA会長 足立征三郎)

## BSA信徒叢書 14年ぶりに新刊を!

『聖書の心と茶の心』 主教 高橋宏幸著

『ウィリアムズ主教に学ぶ—その生涯と同師をめぐる人々』 元立教学院院長 松平信久著

『神の教会・わたしたちの教会—信徒の奉仕職のヴィジョン』 主教 加藤博道著

BSA(日本聖徒アンデレ同胞会)は、4月23日の理事会で、信徒叢書委員会が提出した信徒叢書第二期発行計画を承認した。

これによって新しいBSA信徒叢書、表記3冊が9月に刊行されることとなった。新刊の発行は実に14年ぶりである。

信徒叢書の創刊は1988年4月、信徒伝道の書として竹内 寛著『聖公会という名の教会』(一)でスタートした。以来2007年3月の飯田徳昭著『米国聖公会』(二)まで18点が発行された。幸い各方面から迎えられ、今も年間数百冊の注文がある。教会での勉強会や神学校での課外教材、あるいは病者訪問時のプレゼントとして活用されて来た。信徒講座の席で参加者に推薦してくれた聖職者もいた。信徒だけでなく、教会を訪れる末信徒の人たちが手にする光景もよく見られる。

その後諸般の事情で中断を余儀なくされた。それから15年近くが経過、ここ数年新しい叢書の発行を期待する声が多く寄せられるようになった。こうした声を受けて、信徒叢書委員会では、

数年前から検討を重ねて来た。

武藤六治主教は、かねがね「信徒叢書はBSAにもっとも相応しい活動だ」と言っておられる。

### <3点を同時に発行>

今回の叢書は、2027年のBSA創立100周年記念事業の一環として発行する。判型(新書版)および装丁は、これまでのものを踏襲する。頒価は一部100円。

聖公会という教会への理解を深め、私たちの信仰生活をより豊かにするために、勉強会での活用はもとより、クリスマス、イースター、結婚、誕生日、洗礼・堅信等のプレゼントとして広く活用されることを期待している。

問い合わせは、BSA本部まで

電話：03-3436-4325(月・木・金の午後)。

ファクス：03-3432-1696

メール：mail.bsa@nssk.org



なお、今回発行する3冊のうち、『ウィリアムズ主教に学ぶ』の著者松平信久先生は、さる5月20日、逝去されました。著書の執筆に最後まで力を注いでくださった先生に心からの感謝を申し上げますとともに、謹んで哀悼の意を表します。



## &lt;新刊書の概要&gt;

高橋宏幸著

## 『聖書の心と茶の心』

聖書に書かれていることと茶道の点前の類似点は、多くの人が指摘している。たとえば茶碗の回し飲みと陪餐の仕方、「にじり口」と狭き門から入ることの共通点などである。

著者は両者の類似点を形そのものよりも、その背後にある精神や心といった内側にある意味に注目。大切なことは、謙虚で素直な心、つねに自分の心を「一」に戻して、そこから始め、また、読むことだという。

松平信久著

## 『ウィリアムズ主教に学ぶ—その生涯と同師をめぐる人々』

ウィリアムズ主教は、1859年来日、1908年に帰国するまでのおよそ50年、日本聖公会の成立

をはじめ、立教学院や東京三一神学校および多くの教会、病院や施設の設立にかかわった。

その間、大隈重信や前島蜜らとの交友を重ね、荘村助右衛門、元田作之進、名出保太郎、石井亮一・筆子ら多くの人材を育成した。ウィリアムズ主教の日本での足跡と人間の大きさを描く。

加藤博道著

## 『神の教会・わたしたちの教会—信徒の奉仕職のヴィジョン』

教会での牧師と信徒の関係や役割は、上下の関係で受け止められる傾向が未だに強い。「しかし」と著者はいう。「教会の活動や礼拝は聖職者のみでは成立しない。そこに信徒が深く関わることによって成立する」と。それを英国国教会やアメリカ聖公会の例を参考にしながら、信徒の役割を問う啓発の書。

(執筆・BSA理事 吉松英美)

管区事務所

〒162-0805

東京都新宿区矢来町65番

電話 (03)5228-3171

FAX (03)5228-3175

日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE

65, Yaraicho, Shinjuku-ku

Tokyo 162-0805, Japan

Tel. 81-3-5228-3171

Fax. 81-3-5228-3175

内閣総理大臣 菅 義偉 様

経済産業大臣 梶山弘志 様

## 福島第一原子力発電所放射能汚染水海洋放出の撤回を求めます

私たち、「日本聖公会日韓協働委員会」、「日本聖公会正義と平和委員会」および「大韓聖公会韓日共同委員会」は、以下の「日韓教会(NCCK-NCCJ)共同声明文—福島第一原子力発電所放射能汚染水海洋放出計画の撤回を強く要請します」を支持し、漁業関係者をはじめ国内外からの反対の声に耳を傾け、自然環境を含むすべての「いのちの尊厳」を守るために、福島第一原子力発電所放射能汚染水海洋放出を撤回することを強く求めます。

2021年6月10日

日本聖公会 正義と平和委員会 委員長 主教 上原榮正

日本聖公会 日韓協働委員会 委員長 主教 磯 晴久

大韓聖公会 韓日共同委員会 委員長 主教 朴 東信

## 日韓教会 (NCC-K-NCCJ) 共同声明文

## 福島第一原子力発電所放射能汚染水海洋放出計画の撤回を強く要請します

「わたしは今日、天と地をあなたたちに対する証人として呼び出し、生と死、祝福と呪いをあなたの前に置く。あなたは命を選び、あなたもあなたの子孫も命を得るようにし、あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。」(申命記 30:19-20)

すべての地に正義と平和、いのちの種を植え育てるために、わたしたち日韓のキリスト教協議会は、日本政府が公式発表した放射能汚染水海洋放流計画が、人間と自然のいのちの本来の姿をゆがめ、人類全体を緩慢な死に追いやる明白な犯罪的行為罪であることは明らかであり、これを即刻撤回することを強く要請します。

全人類を驚愕させた東京電力福島第一原子力発電所(以下、福島第一原発)核事故が起こり10年目になる2021年4月13日、日本政府は、福島第一原発の放射能汚染水の海洋放流計画を公式に発表しました。自国内だけでなく、周辺国をはじめ全世界より深い憂慮と反対の表明が寄せられたにもかかわらず、一方的に汚染水の海洋放流が決定されました。

日本政府は、放射能汚染水を人体に無害な水準にまで希釈し、段階的に放流すると主張しています。しかし、希釈して放流しても、海に捨てられる放射能物質の総量に変わりはありません。それだけでなく、東京電力が浄化施設として提示した多核種除去設備(ALPS)の場合、初期段階の設備欠陥の問題が提起されたばかりでなく、浄化処理が不可能なトリチウムや炭素14などの核種はそのまま残り、海に放流されるほかないというのが現実です。そして実際、福島第一原発で汚染水を浄化した後のタンク貯留水に、トリチウムだけでなくセシウム134、セシウム137、ストロンチウム90、他にも半減期が1570万年という長寿命のヨウ素129などの放射性物質が、告示濃度を超えて残留していたことが2018年8月に明らかにされています。それまで東京電力は、トリチウム以外の放射性核種は基準値以下にまで除去していると説明していました。しかし、それは甘い想定は守られないことが証明されてしまっています。日本政府は、他国の原発でも同様にトリチウム水を放出していると弁明していますが、福島で予定される排水は悲惨な事故を起こした原発の処理水であり、同列に扱うことは間違いです。このように放流された有毒性の物質は、海流に乗り全世界へ広がり、海洋生態系に蓄積され、結局人間にそのまま伝達されながら、女性や子どもたちをはじめ全人類に想像をこえた災害となることは自明です。日本政府のこの度の決定は、有毒物質を、何の対策もなく海に流し込むことにより、人類と地球生態系を有毒汚染水の危機の前に無防備で晒すことにほかなりません。

核廃棄物処理は、単に福島だけの問題ではありません。日本では、青森県六ヶ所村に所在する日本最大の使用済核燃料再処理工場で、2022年から福島第一原発のトリチウム総量をはるかに超えた放射性物質を含んだ莫大な量の核廃棄物が蓄積され続け、しかもそれらを処理する適切な方法が見いだされないまま、毎年海洋と大気に放出されようとしていると、このことを憂える国々の科学者や市民たちから指摘がなされています。それは、時間が過ぎるほど、蓄積されていく莫大な量の核廃棄物を処理する適切な方法が見いだされないために引き起こされる事態なのです。六ヶ所再処理工場で放出が予定される放射性核種、特にトリチウム、炭素14、クリプトン85の三種は100%全て外へ出すとのことであり、どれだけ海と空で希釈されようとも総量に変わりはなく、断じて許されることではありません。六ヶ所再処理工場では、トリチウムだけでも毎年800トンが流される予定です。それは、福島第一原発1~3号機の溶けた炉心から出たトリチウムが200トンであることから、トリチウムだけでも毎年4倍もの量が流されることを意味します。もちろん、他にもプルトニウムなどの非常に危険な核種も流出が避けられないことは、これまでの世界の再

処理工場周辺の実態調査より明らかとなっています。日本政府は再処理工場に固執しており、その意味で福島第一原発程度の汚染水放出量を断念するわけにはいかないという理由を抱えているという疑念が強く持たれます。福島第一原発には7～8号機の増設予定だった敷地もあり、まだ貯留タンクの設置可能な場所はあります。しかも技術者や研究者も参加する原子力市民委員会より、大型タンク貯留案やモルタル固化処分案も出されているのに、これを採用しないで海洋放出を一方的に決めることは断じて認められません。

他でもなく韓国の状況も同様です。月城原発では、使用済核燃料の貯蔵水槽が飽和状態に至り、住民たちの反対にもかかわらず、使用済核燃料の乾式貯蔵施設（マクスター）の増設を強行しようとしています。そればかりでなく、原発敷設地の地下水からトリチウムが大量に検出されましたが、その原因や、周辺環境に及ぼす影響については、全く明らかにされていません。数多くの葛藤を抱えながら建設された慶州放射性廃棄物処理場では、汚染地下水がとめどなく海に排出されています。韓国の原発も同様に放射性物質放出の責任を免れることができません。

汚染水の希釈など、処理施設の完成後、実際に放流されるまでに残った時間は2年余りです。これからの2年は、放流のための準備の時間ではなく、核からの安全と生態系保全との公正な確保を模索する決断の時間とならなければなりません。これから、わたしたちとわたしたちの子孫、そしてすべての被造物のために、貪欲と無知をこえて、いのちを選び取ることが大きな使命であります。

このことについて、わたしたちは以下のことを要求します。

1. 日本政府は、福島第一原発汚染水の海洋放流計画を即刻撤回し、周辺国、及び国際社会と協力して、根本的で、安全な汚染水処理対策を整えていくことに積極的に取り組むこと。
2. 韓国政府は、日本政府、及び国際社会と共に福島第一原発放射能汚染の現況と実態、食物汚染の危険性、汚染水流出による人体への影響などを綿密に調査し、根本的な安全対策を整えるために最善を尽くすこと。
3. 世界の市民に訴えます。原子力発電所を稼働させる国も核廃棄物の処理の責任を免れることはできません。莫大な費用を費やしながらか結局安易な方法に走ることなく、人類と地球生態系の持続可能な共存のために、核の脅威からの安全な世界をつくり出していくことに全力を注ぎ、協力していくこと。

日韓両国の教会は、世界教会、及び全世界の市民と連帯しつつ、核と放射能の汚染から安全な地球を守るために全力を尽くさなければなりません。

2021年4月29日

日本キリスト教協議会

総幹事 金 性済

平和・核問題委員会委員長 内藤新吾

韓国基督教教会協議会

総幹事 李 鴻政 (イ・ホンジョン)

生命文化委員会委員長 安 洪澤 (アン・ホンテク)

SEA SUNDAY 2021

海の主日  
2021年7月11日

THE MISSION  
TO SEAFARERS

国内のMTSは苫小牧、神戸、横浜にあります。  
日本聖公会員のご支援、寄付・献金、  
祈りにこの場をお借りし深く感謝申し上げます。  
船員のサポートに努める私たちが  
海の主日の祈りに覚え、ご支援ください。

NSKK 日本聖公会

## 『聖公会手帳』2022年度版発行に当たってのお願い

『聖公会手帳』巻末の特集欄では、日本聖公会が幅広く関わる学術・教育・文化・医療・福祉などの諸分野にわたる社会的活動を〈事業紹介〉として掲載してまいりました（『聖公会手帳2021』382～409頁を参照）。現在編集集中の2022年度版『聖公会手帳』では、この

〈事業紹介〉の趣旨に賛同し出稿していただける事業所を新たに募集しております。記事掲載の申し込み・詳細等について管区事務所にお問い合わせください。2021年7月15日までにお願いいたします。

☎ 03-5228-3171（総務主事または広報主事宛て）

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。